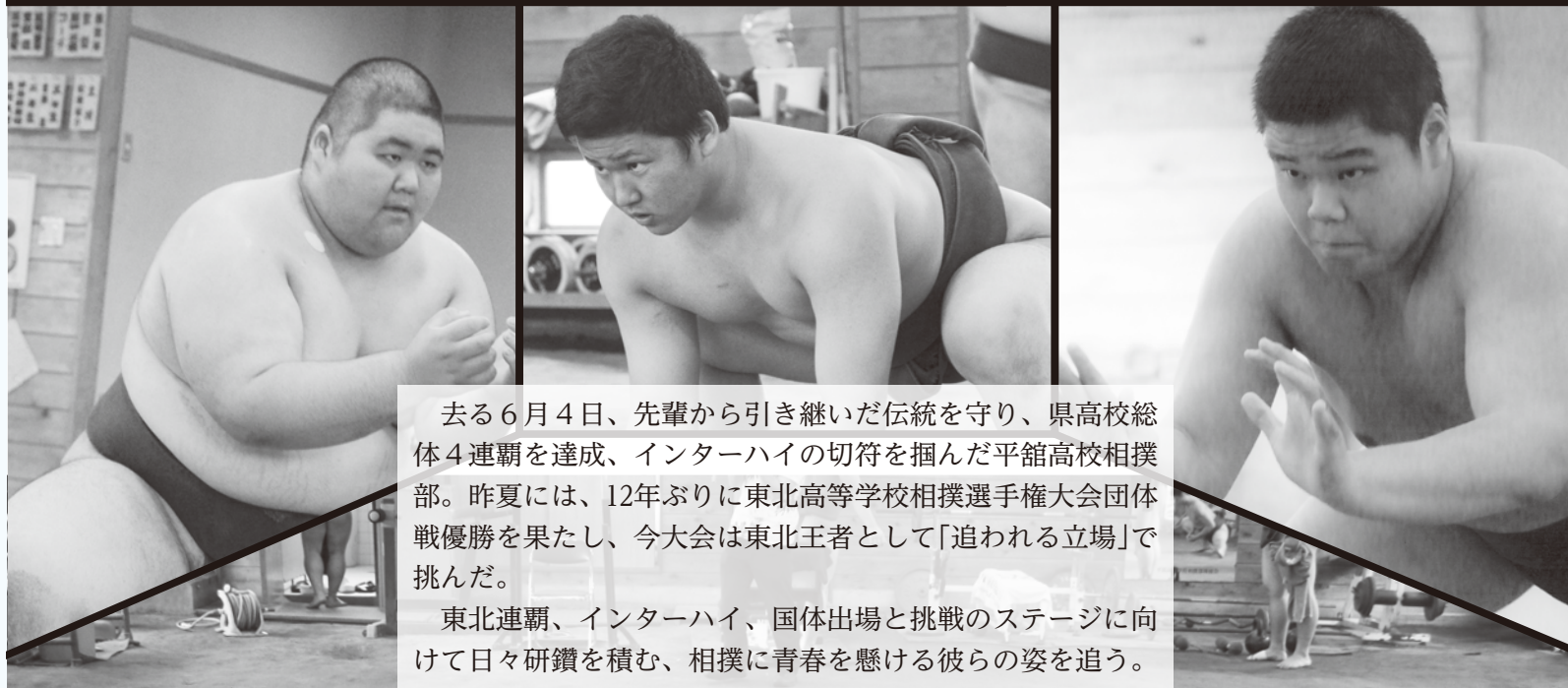
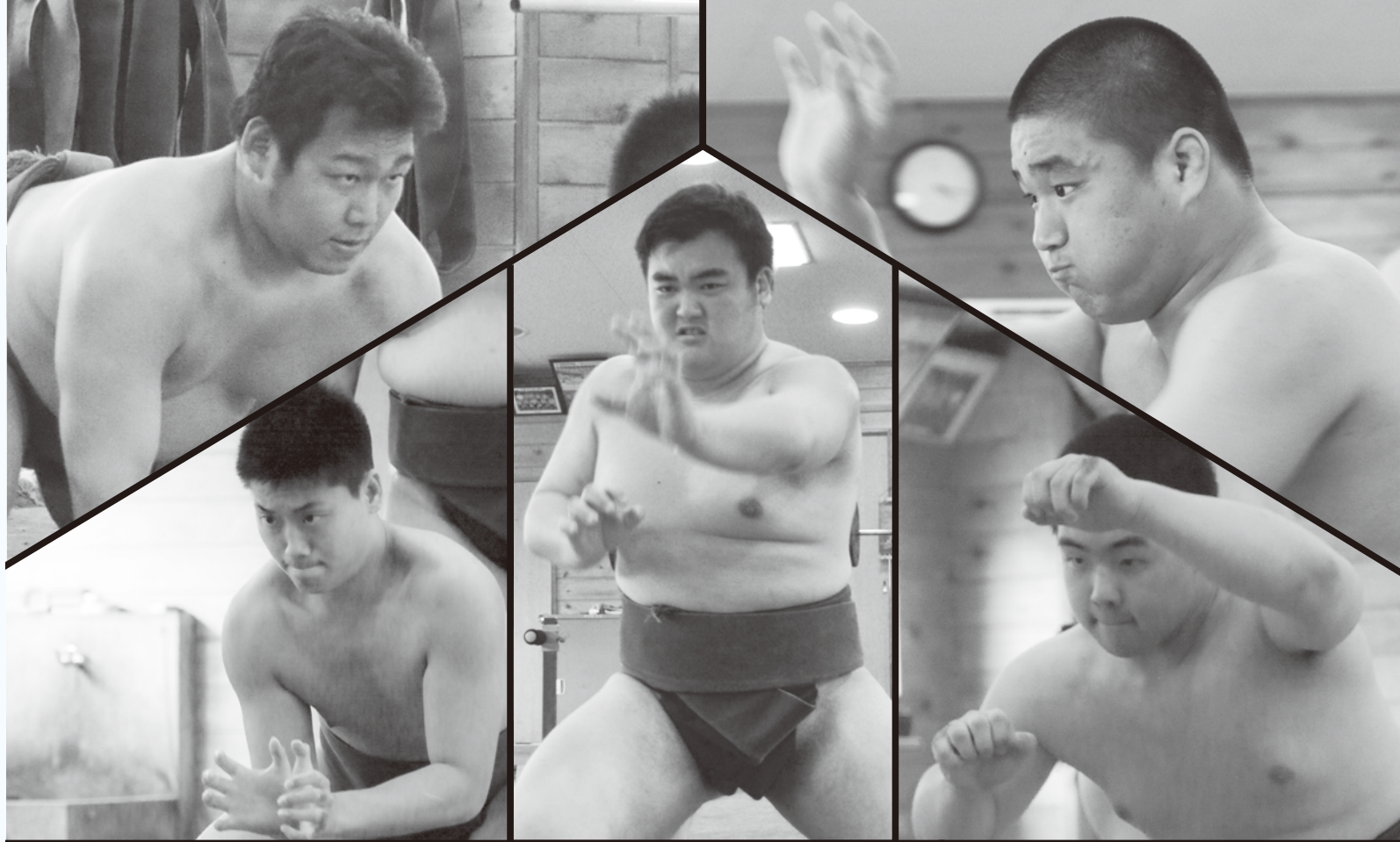




去る6月4日、先輩から引き継いだ伝統を守り、県高校総体4連覇を達成、インターハイの切符を掴んだ平舘高校相撲部。昨夏には、12年ぶりに東北高等学校相撲選手権大会団体戦優勝を果たし、今大会は東北王者として「追われる立場」で挑んだ。

東北連覇、インターハイ、国体出場と挑戦のステージに向けて日々研鑽を積む、相撲に青春を懸ける彼らの姿を追う。

100%八幡平市生まれ八幡平市育ち 故郷の誇り胸に戦う

平舘高校 相撲部 挑戦の夏

向かうところ敵なしの県高校総体

団体戦4連覇達成

6月4日、市松尾相撲場に行われた県高校総体。

平舘高校は、今春の全国選抜大会団体メンバー、松浦裕介(3年)・吉田皇(3年)・津志田亜睦(2年)の3人に、1年の長内龍と松浦和啓を加え、本大会に挑んだ。

終始、勢いを落とすことなく全勝で優勝を果たし、4連覇を達成するとともにインターハイへの切符を手にした。個人戦においても、個人選手権、階級別戦で上位を独占。他を圧倒する実力を見せつけ、会場を沸かせた。



平舘高校選手同士の決勝戦 津志田亜睦(左)対松浦裕介(右) 押し出しで松浦裕介が激闘を制する(個人選手権)



盛岡農高 吉田選手との中堅戦 松浦裕介が寄り倒して勝利し、優勝を決めた(団体決勝リーグ)



試合勢いづかせる重要な先鋒戦 山田高 眞田選手相手に果敢に攻める長内龍(団体決勝リーグ)

団体戦決勝リーグ結果

- ①平舘高校 5-0 山田高校
- ②平舘高校 5-0 盛岡農業高校
- (平舘高校、4年連続37度目の優勝)

個人戦結果

- ◎体重別個人戦
- ▼80キロ未満級
- 3位 古川大世(2年)
- ▼80キロ以上100キロ未満級
- 1位 松浦裕介(3年)
- 2位 松浦和啓(1年)
- ▼100キロ以上級
- 1位 津志田亜睦(2年)
- 2位 吉田皇(3年)
- 3位 長内龍(1年)
- ◎個人選手権
- 1位 松浦裕介(3年)
- 2位 津志田亜睦(2年)
- 3位 長内龍(1年)



団体戦4連覇、個人戦上位独占 戦いの後に顔をほころばせる平舘高校相撲部の面々



団体決勝トーナメント戦を前に闘志を燃やす平館勢
右から、先鋒長内龍、次鋒吉田皇、中堅津志田亜睦、
副将松浦和啓、大将松浦裕介



盛岡農高西條選手をすくい投げで破り、決勝に勝ち上がる松浦裕介選手

6月25日、宮城県大崎市鳴子スポーツセンターで行われた第69回東北高等学校相撲選手権大会。最初に、階級別個人戦が行われた。80^キ以上100^キ未満級で予選を通過した松浦和啓は、平成高(秋田県)の齋藤選手に押し倒しで勝利するも、続く準決勝で酒田光陵高(山形県)秋葉選手に押し出しで敗北。松浦裕介は、三本木農高(青森県)の小原選手を押し出しで破り、続く盛岡農高の西條選手をすくい投げで破り決勝へ進出。しかし、秋葉選手に寄り倒しで敗れ、優勝を逃す結果となった。



突き落としで相手を破る長内龍

100^キ以上級で予選を通過した吉田皇は、三本木農高(青森県)山市選手に突き落としで敗北。長内龍は、日大東北高(福島県)の田中選手を寄り倒しで破り、続く五所川原農林高(青森県)の長内選手を突き落としで破って決勝進出。しかし、小牛田農林高(宮城県)の日下選手に寄りきりで敗れ、2位となった。

東北6県から18校がエントリーした6月26日開催の団体戦。優勝候補筆頭格の平館勢は、先鋒に長内龍、次鋒に吉田皇、中堅に津志田亜睦、副将に松浦和啓、大将に松浦裕介と、県高校総体時から配置を変えて挑んだ。予選は、1回戦気仙沼向洋高(宮

城県)、2回戦会津農林高(福島県)、3回戦鰺ヶ沢高(青森県)を相手に誰一人土を付けられないことなく順当に勝ち上がり、1位通過。迎えた決勝トーナメント。準々決勝、相手は秋田北鷹高(秋田県)。先鋒戦、名前を呼ばれた長内龍は高らかに雄たけびを上げ、土俵に入る。秋田北鷹の浅利選手を押し出しで破り、勢いづく平館勢は、次鋒以降も攻撃の手を休めず、全員が勝利。連覇の2文字が一気に近付いた。

準決勝1。相手は、準々決勝を同じく5勝で勝ち進んだ青森の三本木農業高。そのままの流れで自分たちのペースに持ち込みたい平館勢であったが、先鋒の長内龍が山市選手に、はたき込みで敗れ、先手を取られる。続く吉田皇が寄り倒しで次鋒戦を制したが、中堅津志田亜睦が山内選手にすくい投げでまさかの黒星を付けられる。注目の副将戦、追いつきたい平館勢であったが、松浦和啓は、相手白山選手に突き倒しで敗れ、その瞬間、連覇への道は途絶えた。それでも大將戦、松浦裕介は、押し出しを決めて、戦いを締めた。試合終了後、平館勢は悔しさに顔をゆがめた。

次鋒の役目を果たし、次につないだ吉田皇

団体決勝トーナメント準決勝	平館高	2・3	三本木農業高
先	長内	はたき込み	〇山市
次	吉田〇	寄り倒し	安ヶ平
中	津志田	すくい投げ	〇田村
副	松浦和	突き倒し	〇大高
大	松浦裕〇	押し出し	鳥潟

激しい攻めで相手に攻撃のいとまを与えない津志田亜睦

団体決勝トーナメント準々決勝	平館高	5・0	秋田北鷹高
先	長内〇	押し出し	浅利
次	吉田〇	突き落とし	三沢
中	津志田〇	突き倒し	田村
副	松浦和〇	寄り倒し	大高
大	松浦裕〇	上手出し投げ	鳥潟

戦いを目前に控え精神を統一させる平館勢

続いて個人選手権では、吉田皇と松浦裕介、長内龍の3名が予選を通過。吉田皇は、五所川原農林高の山崎選手を押し倒しで破り準決勝に進出したが、日大東北高の田中選手に押し出しで敗れ、3位となった。松浦裕介は、酒田光陵高の秋葉選手に押し出しで敗北。長内龍は、五所川原農林高の長内選手を上手出し投げで破り、続く秋葉選手を突き落としで破って決勝進出。しかし、田中選手に寄り切りで敗れ、2位が決定した。



3位入賞を果たした松浦和啓

個人戦決勝結果

- ◎体重別個人戦
 - ▶ 80^キ以上 100^キ未満級
 - 2位 松浦裕介(3年)
 - 3位 松浦和啓(1年)
 - ▶ 100^キ以上級
 - 2位 長内龍(1年)
- ◎個人選手権
 - 2位 長内龍(1年)
 - 3位 吉田皇(3年)



個人選手権の表彰を受ける長内龍



表彰式を終えて東北選手権大会団体戦結果は3位入賞



準決勝終了後、悔しさをにじませる平館勢

①学年②身長／体重③得意技④俺の力の源⑤出身中学校⑥今後の目標

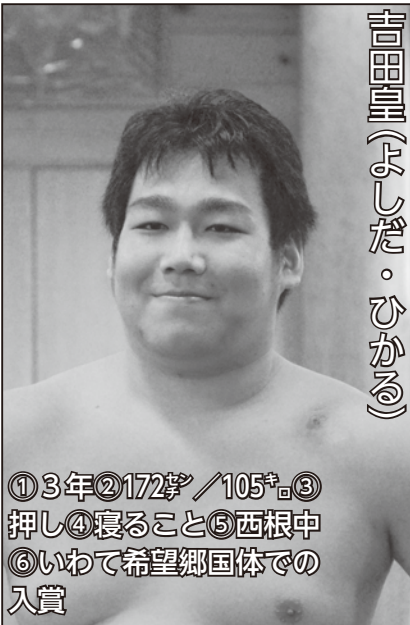
平館高校相撲部部員紹介

松浦裕介(まつうち・ゆうすけ)主将



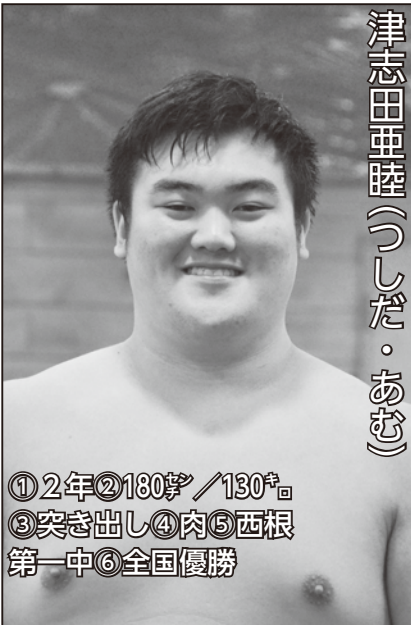
①3年②172㍑／96㍏③押し出し④家族⑤西根第一中⑥高校最後の大会、国体で地元優勝

吉田皇(よしだ・ひかる)



①3年②172㍑／105㍏③押し④寝ること⑤西根中⑥いわて希望郷国体での入賞

津志田亜睦(つしだ・あむ)



①2年②180㍑／130㍏③突き出し④肉⑤西根第一中⑥全国優勝

佐藤海渡(さとう・かいと)



①1年②171㍑／148㍏③寄り切り④朝食⑤西根第一中⑥東北選手権大会個人優勝

吉川太世(ふるかわ・たいせい)



①2年②167㍑／68㍏③投げ④女子⑤松尾中⑥軽量級優勝

田村渉(たむら・わたる)



①2年②165㍑／88㍏③押し④楽しむこと⑤西根第一中⑥中量級入賞

松浦和啓(まつうち・かずあき)



①1年②169㍑／94㍏③押し④寝ること⑤西根第一中⑥強くなる！

長内龍(おさない・りゅう)



①1年②182㍑／130㍏③押し、寄り④寝ること⑤西根第一中⑥高校横綱を目指す

千葉ひかる(ちば・ひかる)マネジャー



平館高校 岩手
①2年 私も相撲をやっています。マネジャーとして部員を支え、応援に励んでいます。

越田正信監督に聞く

◎プロフィール
こした・まさのぶ
昭和52年生まれ 大槌町出身
平館高校赴任17年目 社会科教諭
過去に平館高校相撲部を県高総体12回、東北選手権大会2回の優勝に導く

平館高校に赴任して17年。八幡平市は、相撲が盛んな地域なので、小・中学校と相撲をやってきた子どもたちを伸ばすことに力を入れて指導を行ってきました。指導時は、1から10まで手取り足取り教えるのではなく、部員たちにはエッセンスを与えて、自分たちで考え、自分たちの相撲の型を作り上げていってもらえるよう注力しています。現相撲部は、中学時代に大きな成績を残してきた

県高校総体団体4連覇。先輩方から引き継いだたすきを僕たちの代でまた後輩につなぐことが出来てよかったです。優勝の勢いをそのままに東北選手権大会での2連覇を目指して、モチベーションを上げて稽古に取り組みました。しかし、結果は団体戦3位。勝負の世界の厳しさを痛感しました。

今まで先輩方に全国を経験させて

粒ぞろいのチーム。実力・潜在能力は十分だと感じています。さらなる飛躍のためには、精神面での成長が大きな課題です。普段の生活も含めて、相撲人として人としてたくましく鍛え上げたいです。東北選手権大会は、もう一步という結果になりましたが、個人戦での入賞は例年になく多く、得るものも多かったです。今の流れを大事に来る大会に向けてチームの強化を図ります。

もらえたことで良い刺激になっていました。高校最後の夏、今度は僕らがそれを後輩に残す番。良い結果を残したいです。目指すは、上位入賞です。そして今年は、地元開催の国体があります。現チームメンバーは、皆、八幡平市出身。中学生の時から本国体のことは周囲から言われ続けていたので、ずっと意識して稽古に励んでいました。故郷の誇りを胸に、今までいただいたたくさんの応援に応えたいです。

東北選手権大会は、団体戦3位という、彼らにとって悔しい結果に終わった。「今のチームになって初めての敗北。大会2連覇出来ず残念だけど、勝って満足感に浸るより、負けたことで課題や改善点が見えたので次につながるいい経験になった。この悔しさを胸にインターハイ・国体に向けてまた精進します」と、松浦裕介主将は前を見た。今大会もひとつの通過点として、平館高校相撲部はまた走り始めた。



足腰を鍛え 柔軟性を養う



稽古を通して培う精神力。

共に汗を流し築いたチームワーク。